



帰国生の学校選び A to Z

●第24回●

帰国生の多い高校とは？～在籍生徒数と占有率

帰国後に進学する学校は、帰国生がたくさんいる方が安心とお考えの方も多いでしょう。確かに似た境遇の仲間が多ければ日本の学校生活にも順応しやすいですね。では、どんな学校に帰国生が多いのでしょうか。海外子女教育振興財団発行の「帰国子女のための学校要覧 2013」にて高校別の在籍帰国生徒数を調べてみました。

最も多い高校は同志社国際(536人)です。次いで国際基督教大学(511人)、南山国際(366人)が続き、立命館宇治(205人)、都立国際(159人)、啓明学園(149人)、慶應義塾湘南藤沢(146人)、茗溪学園(138人)、頌栄女子学院(137人)、玉川学園(129人)、早稲田大学本庄(129人)、桐朋女子(121人)関西学院千里国際(120人)、國學院久我山(115人)、渋谷教育学園幕張(91人)、広尾学園(81人)、実践女子学園(81人)、中央大学杉並(81人)、青山学院(81人)、早稲田大学高等学院(78人)と続き、ここまでが上位20校です。確かにこれらの高校の名前は海外生活の中ではよく見聞きします。

同志社国際、国際基督教大学、南山国際、関西学院千里国際の4校は、帰国子女の受け入れを主たる目的として設立された学校なので在籍生徒数も多く、学校全体の生徒数に占める比率も高いです。同志社国際(64.7%)、国際基督教大学(68.5%)、南山国際(88.2%)、関西学院千里国際(48.2%)。このように占有率に目を向けると、啓明学園が42.0%と先述の4校に匹敵する高さですが、生徒数では4位の立命館宇治は19.1%とそんなに高くはありませんし、20位の早稲田大学高等学院の占有率は5.2%にとどまっています。一方で、神奈川県立横浜国際の在籍帰国生徒数は60人、暁星国際は29人と上位20校に入りませんが、占有率は10%を上回り、10人に1人が帰国生です。

今回はデータのみで紹介となりましたが、次回は帰国生の多い学校の長短についてご説明します。

執筆者：丹羽 筆人 (文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)